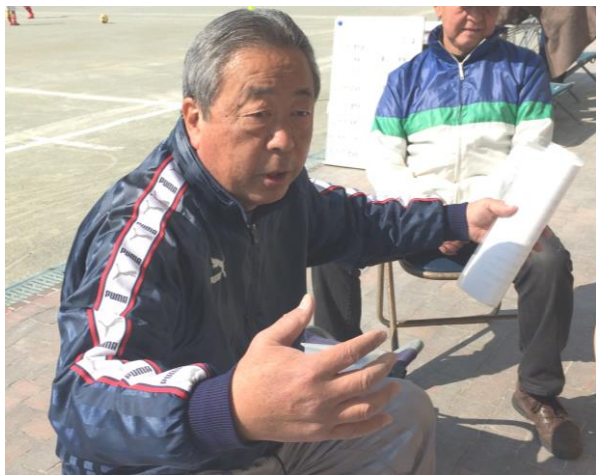


NPO法人湘南ルベントスポーツクラブ

理事長 ^{いっとうぎ} 一藤木 隆雄 さん



2月末の日曜日、子供たちの元気な声が飛び交う玉縄小学校のグラウンドにお邪魔した。年1回行われるルベントカップの決勝戦の日。今回は県内から8チームが参加している。色鮮やかなユニフォームに身を包んだ子供たちが次々と一藤木理事長のもとへ挨拶におとずれる。小さいながら皆礼儀正しい。

「挨拶ももちろんですけど、こうして荷物の置き方、整理整頓など徹底して指導しています。行き帰りも必ず着替えさせて、すぐ近所の子供もいるんですが、汚れたユニフォームやスパイクは着替えてここを出ることになっています」スポーツを通して学べることの一端を垣間見た気がする。

試合開始前の忙しい合間を縫って、湘南ルベントスポーツクラブのこれまでとこれからについてうかがった。



理事長として4期8年を勤めてきたが、チームとのかかわりは30年以上になる。サッカーをとりまく環境も子供たちもずいぶん変わった。

「自分の3人の息子たちがこのクラブの卒業生。当時と比べると本当に子供たちのサッカーはうまくなりました。小学校1年生なんていたらグラウンドに出たって砂遊

びをしているような時代もありましたから。今はお父さんたちがサッカーに慣れ親しんできた世代。子供たちも最初にさわるのがサッカーボールという時代です。子供と遊ぶといえばキャッチボールだったころとは隔世の感がありますね。」

息子さんたちの参加をきっかけに湘南ルベントの前身「玉縄サッカークラブ」に携わるようになったのが30数年前。周辺にはまだ少年サッカーのチームはなかった。Jリーグが発足して一気に裾野が広がり、学区外はもとより周辺市町村からの入団希望者も増えていく。2005年にはチーム名を「湘南ルベント」と改め、NPO法人として新たなスタートを切った。



鮮やかな青に黄色の文字が映える横断幕。「ルベント」とは「光」と「風」を意味する造語。創立は1977年。卒業生は800人を数える。現在も約140人の子供たちを抱える。

理事長に就任してからこれまでを振り返ると、やはり印象に残るのはチームの勝利だ。ホームページでも公開されている戦績表には優勝の文字がずらりと並ぶ。中でも神奈川県のカンファレンスで県下440チームの頂点に立ったことは忘れがたい。エンブレムに刻まれた星のマークはその証。カンファレンスの優勝チームだけがそれをつけることができるのだという（写真）。

NPO法人に移行して以来、強いサッカーをめざして活動してきた。地域に根ざした活動や全員出場の方針はそのままに、プロコーチを招いて技術の向上につとめてきた。強いサッカーにこだわるのは、即ち戦績が何より外へのアピールとなるからだ。サッカーチームの増えた現在でも団員の半数近くは学区外の子供たち。レベルの高いプレーをもとめて人が集まるのは当然と言える。注目され、活動に活気が出ることは、子供たちによりよい環境を与えてやることにつながる。2013年には鎌倉市から「鎌倉市ジュニアスポーツ栄誉賞」を授与された。ジュニアスポーツのチームとしては第一号。市の内外での活躍が評価された形だ。



湘南ルベントは来年で活動40周年を迎える。今後の課題や展望について聞いた。

「サッカーというスポーツが世の中に根付き、子供たちの技術も確実にレベルが上がっています。周辺のチームも次第に力をつけてきた中、これまで以上にプロコーチの指導を増やしてクラブチームとしての力を高めていきたいですね。」

また何より重要な課題として場所の問題がある。現在使用している玉縄小学校、植木小学校のグラウンドだけではこれ以上の活動は難しく、ジュニアユース（中学生の部）の募集が現在休止中であることもグラウンドの問題が大きい。こうして小学生が元気に走り回っているグラウンドも中学生には手狭だ。

場所さえあればと6年生のコーチをつとめる白瀧光氏（写真）も言う。もともと湘南ルベントは「湘南ルベントスポーツクラブ」という名の通り、少年サッカーを主軸としつつもスポーツによる地域振興を目指している。「場所さえあれば、小さな子供たちからお年寄りまで様々なスポーツを楽しんでもらえるのですが。」



コーチの白瀧光氏と。静岡の名門清水商業高校サッカー部でキャプテンをつとめた後U-20日本代表候補。息子さんの入団を期にコーチとして関わるようになって20年。やはりチームのレベルの向上には目をみはるものがあると感じている。

鎌倉市はもともと広いグラウンドが少ない。サッカー専用のグラウンドもない。市長に直接話をするなど、行政への働きかけも行っているが、なかなか実現のめどがたたないのが現状だ。

「子供たちに思い切りスポーツを楽しめる『環境』を提供してあげること。それが発足以来変わらない我々の理念です。そのためには場所の確保と専門性の高い指導が何よりの課題ですね。」周辺の地域と比べて決して恵まれているとはいえない条件で質の高い活動を続けてきた。現在所属している20人のコーチの半数近くはクラブのOBだ。優秀な人材が巣立った後もこうして運営に関わり続けてくれるのもこの土地ならではのこともかもしれない。こういった団体が地元で生まれ長く続いてきていることが誇らしい。何らかの形で問題が解決し、活動が広がっていくことを願ってやまない。

<http://www.luvento.jp/index.html>